



身に着けていた眼鏡や腕時計なども展示

民俗学の見地から



琉球大学名誉教授 小島 瑠禮さん

時代を記した作品

和田傳の著作は、戦前・戦中・戦後の農家の様子を描き、農村社会の記録を詳細に残しています。元内閣総理大臣の竹下氏が「和田傳の農民文学は私に大きな影響を与えた」と記録があるほど、農民の生活をリアルに描いています。昔の厚木を知ることができる大切で貴重な資料といえるでしょう。

小島さんは講演会②の講師を務めます。

参加無料 デビュー100年「和田傳」再発見 今甦る あつぎの明治・大正・昭和を生きた作家の真実

- 展示 デビュー作「山の奥へ」の校正過程の原稿や「門と倉」の直筆原稿3300枚などの他、今まではあまり目にできなかった中学生時代に書いた作文なども展示します。
■講演 絵や文字を書く楽しさを体験できます。
■講義 絵や文字を書く楽しさを体験できます。
■映画「鰯雲」の上映会

和田傳の著書販売 《販売する本》 いわし雲、山の奥へ 《価格》 1冊200円(予定) 《販売場所》 あつぎ郷土博物館

作品を讀もう

展示や講座などの詳細はこちら



あつぎ郷土博物館 ☎225-2515

書籍などを収集



吉田 隆一さん (73・旭町)

吉田さんが所蔵する絵日記なども博物館に展示します。

生涯書き続けた文学者

厚木の文学者ということで、20年ほど前に和田さんの資料を集めるようになり。中学生の時に書いた絵日記や和田さんに届いた手紙の封筒など、集めた物は2000点を超えます。今はインターネットで情報を集められますが、当時はなかったので、国会図書館へ行き知識を深めました。多くの資料を見ると、和田さんは晩年まで書き続けた人だと思えます。展示を見て、和田さんの人柄なども感じてほしいです。

和田傳文学賞

今年で37回目を迎える和田傳文学賞。和田傳の遺志による寄付で創設された「厚木市和田傳文学基金」で開催しています。児童・生徒が詩、作文、短歌、俳句で自分の思いを自由に表現し、文学に親しむのが目的です。



▲厚木中学校前に設置された文学碑の除幕式 ※5

和田傳の孫 太田 麻生さん 祖父の記憶

祖父は欲がなく、高身長と風貌が相まって仙人のような人でした。口数は多くありませんでしたが、要所で発する鋭い一言が印象的です。祖母が作る当時は珍しいグラタンが好物で、食べることが好きな一方でお酒はとても弱かったです。農地改革がされた時には「時代の流れだ」と、こうなることを分かっていたような反応をしていたそうです。先見の明があった人なのだと思います。



厚木の偉人「デビュー100年」 和田傳が記した厚木の地

和田傳は85年の生涯の多くを厚木で住ごし、目に映る人々や社会の変化を作品にした作家です。親族や関係者の言葉、100年を記念した展示などから、作家の人柄や歩んだ人生に触れてみませんか。

あつぎ郷土博物館 ☎225-2515



本人を撮影 加藤 芳明さん (80・旭町)



寡黙で静かな印象

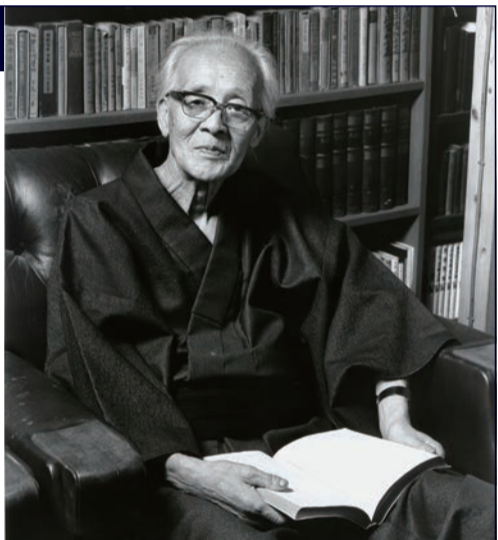
厚木に著名な作家がいることを知り、知人を通じて和田さんを撮影しました。会ってみると口数が少なく寡黙な方でしたが、縁側でお茶を飲んでる様子を撮りたいと伝えると、快く湯飲みを準備し腰かけてくれました。後日、プリントした写真を持って行くと、縁側で撮影した写真を気に入り、笑顔を見せてくれたのを覚えています。

加藤芳明さん撮影 (1面と右の写真も)

和田 傳

〈プロフィール〉

1900～85年。本名・和田傳。通称・和田傳と呼ばれる。南毛利村恩名(現在の厚木市恩名)の地主の長男として生まれる。県立厚木中学校(現県立厚木高校)を卒業し、早稲田大学仏文科に進学。23年に「山の奥へ」を発表。38年「沃土」で第1回新潮社文芸賞を受賞。代表作には「大日向村」「日本農人傳」「鰯雲」「門と倉」などがあり、「鰯雲」は58年に映画化。55年に神奈川文化賞を受賞し、85年に厚木市名誉市民となる。



愛TV 7/1～

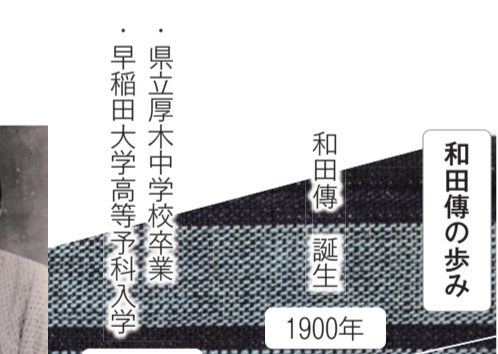
「沃土」が第1回新潮社文芸賞を受賞 ※3

第6回芥川賞の審査会でも最高点を獲得していたが、すでに新潮社文芸賞に内定していたため、受賞には至らなかった。初版本の装丁は、農民が着る野良着や布団の生地などとして織られていた「秦野木綿」が用いられた。



自宅撮影 (1935年)

結婚 ※1 農民文芸会を結成 短編「少年」などを発表 早稲田大学卒業 「山の奥へ」でデビュー 早稲田大学高等予科入学 和田傳 誕生 1900年

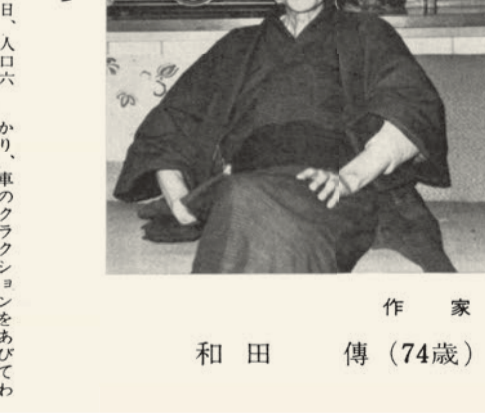


和田傳の歩み

世の中・市の出来事

Timeline of Wada Den's life and local events from 1900 to 1986, including his birth, education, career, and major works.

みち



作家 和田 傳 (74歳)

▲こんには厚木 No.3 「より豊かな広がり」市制20周年記念特集より